

ぱちんこ 言葉物語

69



「パチスロコードギアス 叛逆のルルーシュR2」での最終計測結果。このお店では通算2回目のコードギアスでの万枚到達とのこと。機種性能を考えればまさしく奇跡だった。

万枚

今回の言葉物語は「万枚」です。パチスロ打ちであれば夢の到達点でありますが、新基準では夢のまた夢の領域となりました。

「愛のチカラ」で神の引き

少し前ですが、私の妻がコードギアスR2で万枚を達成しました。性能的に万枚が極めて出にくい機種特性である中での奇跡。しかもボーナス回数は驚愕の50回で確率は約110分の1。設定⑥でも約230分の1であることを考えると、まさしく神のヒキでした。原作アニメもこよなく愛す「愛のチカラ」を見させてもらいました。妻曰く、

「面白いように（AR

）のは、確率上は存在し得ないはずですが、このような時は大抵読みが当たるのが不思議です。

4号機の登場を契機に

さて本題です。「万枚」とは文字通り「1万枚を出す」ことです。過去、裏モノと呼ばれる様々な違法機があった時代でも、実は万枚出るのは極めて少数だったと記憶しています。この言葉が日常的になったのは、ご存知4号機AT（アシストタイム）搭載機時代、2000年以降からです。このパチスロ時代の隆盛については割愛しますが、1回の出玉増加契機で1万枚以上を叩き出す、「万枚」の上位語となる「一撃

万枚」という言葉が当たり前の時代となったわけですが、さらには5万枚を超えるような報告も上がってくるようになり、射幸性の抑制が図られる



魔法少女まどか☆マギカ2での一場面。新基準ではこのような一撃性が強制的に終了させられてしまう。
©Magica Quartet / Aniplex・Madoka Partners・MBS、©UNIVERSAL ENTERTAINMENT

いたということが考えられるわけです。

納得しづらい 強制終了

ところが、今回その部分が大幅に見直しをされることになりました。特に注目なのが「有利区間1500Gでの強

制終了」です。傾斜値（1G当たりの増加）2・0枚と考えて約3000枚ですが、問題は「ART等が何ゲーム残っていても強制終了となる」点です。パチスロのゲーム性の根幹が大きく揺らぐ過去最大の変更は、暫く市場に大きな動揺を残すでしょう。ユーザーが自ら引き当てて貯めたものを規制だからと強制終了する（ように見える）のは、前述のユーザー心理から大きなマイナスに見えるので、この点は重要なポイントになるのではと思います。

万枚という言葉は遊技機の性能上、一人の大きな幸せを作るために作られた時代のアダ花と言えるでしょう。今回の規則改正で、多くのパチスロユーザーの笑顔をたくさん咲かせる遊技機の登場と、それを活かすホールがより多く生まれることを願ってやみません。

（大和田敏男）

遠のくパチスロ打ちの夢